

# INTERVIEW

外国人材を受け入れている農家へのインタビュー



令和4年11月

No.6

## ほんかわ 有限会社 本川牧場

### 経営概要

所在地：大分県日田市

従業員：社員130名

外国人材22名（特定技能15名、技能実習8名）

生産状況：

牛飼養頭数約4,500頭、年間出荷乳量2万トン超  
敷地面積(牧場)約50ha、(草地・放牧地)約100ha

搾乳設備：ヘリンボンパーラー1基※（40頭）、  
ロータリーパーラー2基※※（50頭、60頭）

※牛を斜めに並べて搾乳する設備。構造が簡単で、所要面積も比較的少ないのが特徴

※※牛を乗せた円盤を回転させ、1回転する間に搾乳する設備。搾乳作業者は移動することなく、牛にユニットを装着できるのが特徴



1955年酪農業を開始。幾多の苦難を乗り越え、牧場は1979年に法人化。以来、牛と牛乳のことを第一に考え、酪農に取り組み、酪農企業としては日本屈指のギガファームとなる。

酪農界ではいち早く、従来は廃棄されていた食品生産の過程で出る未利用資源の有効利用や、ITとクラウド導入による牛群管理、大学との共同研究などに取り組む。

持続可能な社会の実現と環境負荷の軽減のために酪農家ができることを常に考え、酪農界全体の発展と安定化を目標とした挑戦を続ける。

## 外国人材の受け入れについて

➤ 受け入れのきっかけを教えてください。

2014年に事業拡大による労働力確保のため、当社グループが設立したベトナムの現地法人が紹介する人材を、管理団体に相談の上、技能実習生として受入れを開始しました。

当初はベトナム人2名を採用し、その後徐々に人数を拡大しました。コロナ前は25名程雇用していた外国人もコロナによる入国規制の影響などから、一時期15名程に減少しましたが、現在は、ベトナム人男性23名（うち特定技能15名）を受け入れています。

今後は、特定技能外国人を中心に受入れを増やしていく予定です。

➤ 外国人材の業務内容や受入れの効果はどうか。



搾乳作業（ロータリーパーラー）

主に搾乳作業に従事しています。

搾乳は一見単純な反復作業ですが、変化を見逃さない注意力を必要とします。

時給制として、仕事を覚え、社内試験を合格するほどに時給がアップしていく制度にて運用、外国人材の最大の目的である収入増とスキルアップが相乗効果を生むように工夫しています。

為替変動による影響を緩和する制度も導入し、彼らのモチベーション維持に留意しています。

## 受け入れ農家としての取組

➤ 外国人材の生活環境を教えてください。

会社の敷地内にある寮にワンルームに2名で住んでいます（1部屋1万円/月。光熱費別）。勤務時間は3交替のシフト制なので、シフトが異なる者を同部屋にするなどプライベートが確保できるよう配慮しています。

食事は、社員食堂（1食300円）を完備していますが、外国人は自炊をするなど、生活費を少しでも節約することに努めています。

休暇は月に6日です。

本社は日田市が見渡せるような高台にあるものの、月に1回は麓の街に遊びに行ったり、週1回以上は当社の送迎車で、買い物に出かけたりしています。

また、以前から親睦を目的に定期的に開催していたバーベキューは、コロナの関係から見合わせていましたが最近再開しました。

冬に雪が積もれば、ベトナムにはない初めて見る雪に感動し、はしゃぎながら雪だるまを作るなど楽しんでいます。



バーベキューの様子



初めて見る雪に感動！

➤ 外国人からの相談等はどのように対応していますか

外国人とは月1回ヒアリングを行いながら、仕事や生活などに関する様々な意見、要望などを聞いています。また、困っていることがあれば、その都度相談を受けています。

最近は大卒の影響で、母国への送金が目減りするなど悩みを抱えている状況も見受けられますので、ボーナス支給時に為替変動分を緩和するための制度を2022年冬季賞与より実施しています。

今後は、外国人の雇用を更に増やしくことになろうと、考えています。

このため、現在の寮が手狭となることから、30名程度収容可能な外国人向けの新たな寮を来年の4～5月の完成を目指して建築を進めています。1人1部屋が実現できます。

外国人には、働きやすい職場環境の整備や納得のいく給与面での待遇などに取り組むことで、可能な限り長い期間働いてほしいと思っています。

## 今後の事業展開

➤ 今後の展開や取組について教えてください。

今後、外国人の雇用を増加していくにあたり、現在は搾乳を中心として働いてもらっていますが、搾乳以外の仕事にも従事させたいと検討しています。

国籍を問わず、雇用や人材育成への課題はまだ山積しています。

ニーズに合わせて制度改変に取り組むなど、社員及びグループ企業と連携していきます。魅力的な産業として酪農があり続けるために。



牛舎から搾乳場所（パーラー）への誘導